
I love you

あいりく

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I l o v e y o u

【Nコード】

N 7 0 6 1 Q

【作者名】

あいりりく

【あらすじ】

亮平と私のとあるお話

「俺、東京に行きたいんだ。」

地元ファミリーストランでハンバーグを切りながら亮平が言った。亮平はいつも和風ソースを選ぶ。デミグラスソースとかトマトソースとか、時々たま出る期間限定ソースなんかにはこれっぽっちも興味を向けない。

「なんで東京？」

くるとフォークにパスタを絡ませながら素っ気なく聞いた。

「何となく。何がしたいって訳じゃないんだ。ただ、東京は通らなきゃいけない道だと思ってるんだよね俺的に。」

ハンバーグを器用に切り分ける亮平を見ながら、私はそう、と答えた。

そう、といった言葉が余りにも切なく響いたので自分でも驚いた。

ここで言う東京に「行きたい」という言葉は、単に訪れたいという意味ではないことを二人は知っていた。

亮平は頭がいいし回転が速い。

綺麗好きで無駄なことが嫌い。

彼なら充分東京でもやっていけると私は思っている。むしろ、東京に出なくてはもったいないと思う。

それを亮平自身自分で分かっているのだ。

「恵^{けい}はどうするの？」

亮平はお水を一気に飲み干した。
そんなときの湿った唇が私は好きだ。

「私は地元の大学に進もうと思う。特にやりたいこともないし、家から通えたほうが家の負担にならないと思って。」

私には二人の弟と一人妹がいる。大学に進むというだけでどれだけ両親に負担をかけてしまうのか、充分分かっていているつもりでいた。だからせめて家から通えるところに進学しようと考えていたのだ。

それに、どんなに頑張っても亮平と同じ大学に通えるなんて思ってもいなかった。水の上を人間が歩けないのと同じだ。同じ水面上を歩いたと思った瞬間沈んでしまう。亮平はすいすいと歩いて行ってしまう。無論待つてはくれない。

「そうか、まあいずれは違う道を歩くようになるよな。あたりまえだけど」

何がいずれで、何が違う道で、何があたりまえなのか私にはわからなかった。

多少は分かっていたが、分からないふりをしなければきっとこうして正面から亮平を見つめることはできない。

ウェイトレスさんが食べ終えた食事の食器を片づけてくれた。
私は少し心細くなる。

それを打ち消すようにもう出よう、と声をかけた。

外は寒かった。あたりまえの様に寒かった。

そしてあたりまえのように私たちは指を絡めた。

「なあ、恵。I love you って訳すとなになる?」

「貴方を愛している」

「うん、まあそうだよな。」

鼻を赤くしてくしゃっと笑った。

「夏目漱石はこれを、月が綺麗ですね。って訳したらいいんだ。」

「ちなみに二葉亭四迷は死んでもいい」

「・・・ん?」

「まあ二葉亭四迷の話は置いてさ、俺夏目漱石のこの訳し方すげえいいと思うんだよね。」

「どうして?」

「深いじゃん。」

「深い・・・」

ちょうど夜の八時を回ろうとしていた。
私たちは歩いた。何も話さず、ただ黙々と。

「恵、今日は星がきれいだね」

「え、うん。」

本当に星がきれいだった
寒い日は夜空が綺麗に見えるというのは聞いたことがあるが、それは本当のような気がした

「こうやってさ、同じものを見て綺麗だねって言って、同じことを聞いて楽しいねって言って、そういうことだよね夏目漱石」

指を絡めた手をさらに強く握ってきたので、私は負けじときゅつとにぎり返した。

ああ、なんで私はこんなにこの人のことが好きなんだろう
握った手は切なくて暖かくて寒くて涙がでそうになる

「東京、きつと楽しいと思うよ」

「・・・ありがとう」

今日もあたりまえのように寒かった。
あたりまえのように星が綺麗だった
I love you と心の中で唱えた。

(後書き)

初投稿です
ごめんなさい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7061q/>

I love you

2011年2月6日19時14分発行